

あつめよう

“ 農地集積でより良い営農を築こう ”



石巻市 真野大谷地地区「大豆収穫作業」風景

農地集積に関する各地の主な行事

- 大河原地方農地集積指導チーム : 3月13日 第3回農地集積連絡調整会議
- 仙台地方農地集積指導チーム : 2月17日、25～26日 農地集積状況等確認調査実施
- 北部地方農地集積指導チーム : 2月17日～3月7日 農地集積実績確認及び第3回農業農村活性化推進会議実施
- 栗原地域農地集積指導チーム : 2月3日～14日 農地集積実践確認調査実施
- 登米地域農地集積指導チーム : 2月4日～10日 農地集積実績確認調査及び第3回農地集積推進戦略会議
- 東部地方農地集積指導チーム : 3月4日 第3回石巻地域農地集積指導チーム会議
- 農村整備課 : 3月上旬平成25年度集積速報値取りまとめ
- みやぎ農業振興公社 : 各事務所主催の実績確認調査等へ参加
- 農地集積センター : 各事務所主催の実績確認調査等へ参加

農地集積アドバイザー派遣状況(2月分)

月日	時間	会議名	場所	アドバイザー	地区名	主催
2/13	14:00	多田川左岸・敷玉西部・千刈江地区合同農地集積研修会	大崎土地改良区会議室	阿部 啓一 氏	多田川左岸外	宮城県北部地方振興事務所
2/14	13:30	平成25年度仙南地域農地集積研修会	大河原合同庁舎 大会議室	阿部 啓一 氏	大河原管内	宮城県大河原地方振興事務所
2/19	13:00	針生前地区農地集積移動研修会	大崎市「堤根公会堂」	橋本 壽彦 氏	針生前	宮城県大河原地方振興事務所
2/19	13:30	二俣南地区基盤整備事業に伴う生産組織設立に係る研修会	石巻市「東福田農事集会所」	阿部 啓一 氏	二俣南	宮城県東部地方振興事務所

※2月末現在の派遣数は17となっています。

特集：おらほの担い手

1. 地区のようす

真野大谷地地区は石巻市の東部に位置し、西に水田地帯、南に大和田川、北は真野川に囲まれた区域で、昭和20年代に耕地整理された10a区画がほとんどを占めており、農道及び用排水は利便性が低く一体的な整備が必要であることから周辺で実施されてきた事業を背景に平成16年度から経営体育成基盤整備事業として始まりました。

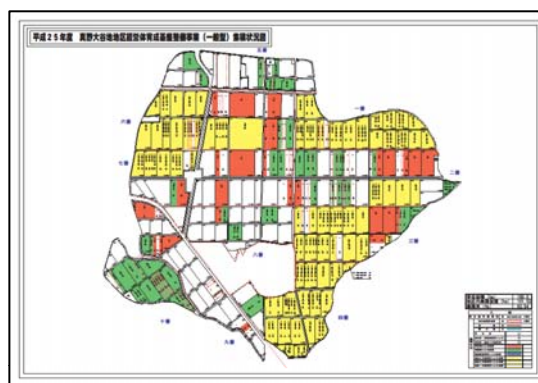
この地区は、営農形態は水稻を基幹作物としているが経営面積1haの農家は全体の17.5%で、残りは30a未満の農家で経営格差が大きい地域でもあります。

そこで、大区画ほ場を整備し、経営の改善に向け担い手の育成を図り、個別担い手農家13戸と既存の法人1に新たな法人1が転作組織から設立され営農を担っています。

特に、担い手への集積率は64.7%(H25)で目標時の68.27%(H28)にあと3.57ポイントと迫っている地区です。



事業名：経営体育成基盤整備事業
 関係市町村：石巻市
 関係土地改良区：石巻市稲井土地改良区
 工期：平成16年度～平成26年度
 受益面積：A=160.0ha
 農家戸数：330戸
 総事業費：2,086百万円
 目標農地集積率：68.27%
 H25実績集積率：64.7%



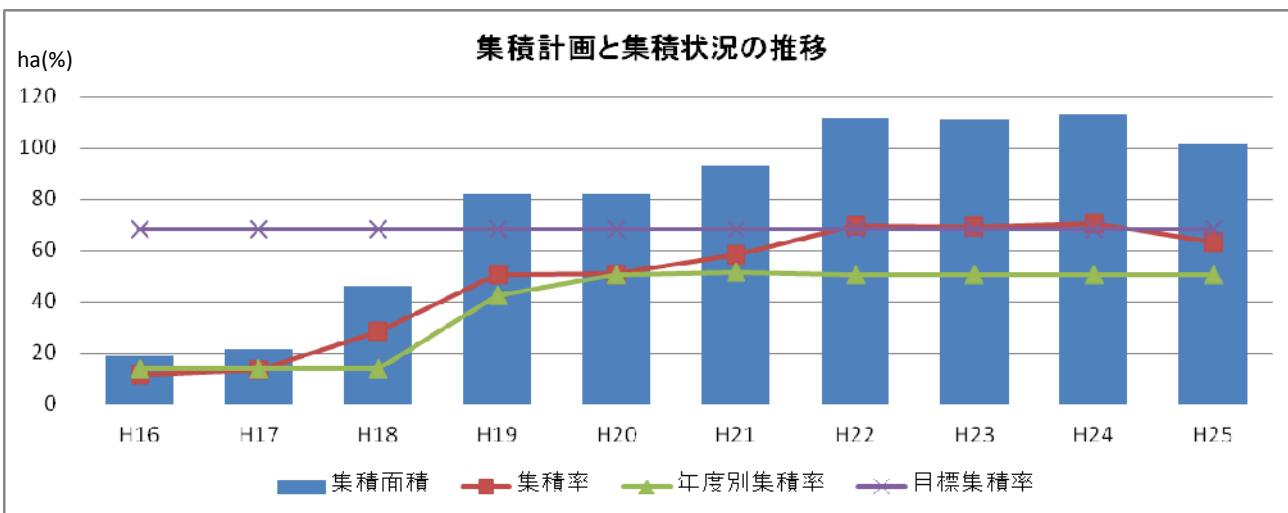
H25農地集積図

2. 真野大谷地地区の集積状況について

地区の集積率は、平成18年度から個別担い手の外に転作組織1と法人1を新たに担い手へ加えたことにより大幅に伸びました。特に、8名で集団転作受託集団を設立し地区内の約4割の転作を担っています。

また、特徴として全員参加の下、2年3作のブロックローテーション方式による稲・麦・大豆等の集団作付を確立したことが集積に大きく貢献しています。

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
集積面積(ha)	18.7	21.6	46.1	82.1	82.1	93.2	111.39	110.98	113.17	101.53
集積率(%)	11.5	13.3	28.4	50.6	50.8	58.3	69.6	69.4	70.7	63.45
年度別集積率(%)	13.57	13.57	13.57	42.47	50.54	51.64	50.64	50.64	50.64	50.64
目標集積率(%)	68.27	68.27	68.27	68.27	68.27	68.27	68.27	68.27	68.27	68.27



3. 真野大谷地地区の担い手について

担い手名	地区内 (㎡)	権利別内訳(㎡)				地区内 作物	認定 農業者数
		所有権	利用権	農地法3条	農作業受託		
個別13戸	336,693	183,015	153,678	0	0	稲作	13
法人2	678,684	0	72,798	0	605,886		2
P01	472,618	0	0	0	472,618	大豆	1
P02	206,066	0	72,798	0	133,268	水稻・大豆	1
計	1,015,377	183,015	226,476	0	605,886		15

真野大谷地地区が採択された当時の目標は、農用地面積160.0haを個別担い手14戸に99.7ha、率にして62.1%を集積する計画でした。

それから3年が経過し、平成19年4月から始まった「水田・畑作経営所得安定対策」の導入に合わせ、個別担い手の8名で転作を中心とした生産組織「グリーンファーム真野大谷地」を立ち上げて実践しながら同組織のメンバーにより、平成24年5月に県内では初めてと成る転作だけの農事組合法人「真大ファーム」が誕生しました。

また、もう一つの法人は平成18年4月に個別担い手4人で「農地組合法人(有)大瓜東部アグリファーム」を立ち上げ、水稻と大豆転作を実施しています。なお経営の拠点は隣の大瓜東部地区です。

これらの担い手は、それぞれ役割を認識し、地区全体が一体と成って集積を図っています。

4. 法人の概要

(1) 農地組合法人真大ファーム

■ 構成員: 7人 ※代表: 阿部啓一氏

■ 常時従事者数: 7人

■ 経営等農用地面積: 45.72ha(目標)うち地区内45.72ha/48.69ha(H25実績)うち地区内48.69ha

■ 経営: 2年3作体系による転作対応 [(水稻)→大麦→大豆→(水稻)] ※水稻は個別対応

(2) 農地組合法人(有)大瓜東部アグリファーム ※代表: 本木雄一氏

■ 構成員: 4人

■ 常時従事者数: 4人

■ 経営等農用地面積: 42.09ha(目標)うち地区内16.15ha/56.65ha(H25実績)うち地区内21.20ha

■ 経営: 2年3作体系による転作対応 [水稻→大麦→大豆→水稻]

今回の「おらほの担い手」紹介は、転作のみを目的として設立された「農事組合法人真大ファーム」について紹介します。

《 真大ファームの取り組み状況 》

(1) 法人までの歩み

当時の計画は、個別担い手が水稻及び転作を担う計画であったが、将来を見据えた話し合いにより水稻は個別、転作は集団組織として取り組むことになりました。特に、事前転作では排水不良のため大麦の収穫は皆無の状況が続いたが平成24年度に暗渠排水工事が完了し、本格的な転作が可能となりました。

また、組織として認定農業者の資格を取るためには法人化が不可欠で、平成22年度から勉強会を開催し、任意組織設立から6年目で法人化を行っています。

(2) 担い手への農地集積状況

区画整理工事後の一時利用地の指定に係る次年度営農及び将来の営農について意向調査を実施し、JAと連携した利用権設定を推進し、集団転作の推進母体である「真野大谷地地区地域農業推進協議会」で集団転作の取り纏めを行い、集積に反映しています。

(3) 経営スタイル(機械の保有状況)

法人の経営は、転作を中心として設立されたことから、できる限り自ら所有する機械は持たず、構成員やJAを活用した経営を行っています。その理由は、法人に成ってまだ日が浅いことと機械の負担は大きく、また米の作付けが今のところ個別対応となっていることから経費のスリム化が第1条件と成っています。それをモットーに担い手としての信頼確保と品質の向上に努めています。

○ 耕起用のトラクターは、構成員より借り上げ使用料を支払っています。

○ 汎用コンバインは、JAいしのまきの「機械化リース」を利用しています。

○ 大豆乾燥調整施設は、JAいしのまきの「大豆センター」を利用しています。

(4) 今後に向けた検討課題

・構成員の大半が60代で、地域の営農を継続して行く為には後継者の確保が急務となっています。

・土地利用型農業の生産基盤の確保対策として、低コストな土作りと施肥対策の検討を進め、次世代への地力の維持に努めることの大切さを認識し実行して行く事です。

5. 法人の作業風景と地域活動

二つの法人は個別担い手と共に地区の担い手として農地を守り営農を続けながら、地域と共に歩む法人として共同作業や景観保全にも積極的に取り組んでいます。

《2法人の作業風景》



大豆の収穫(真大ファーム)



麦の播種作業(大瓜東部アグリファーム)

《農地・水・環境保全事業活動景》



機械による江払い作業



綺麗に咲いた芝桜

平成25年度農業農村整備優良地区コンクール受賞決定

全国土地改良事業団体連合会(全国水土里ネット)主催の農業生産基盤整備部門で石巻市稲井土地改良区の「真野大谷地地区」が農村振興局長賞に決定しました。

この賞は、土地改良事業を契機として、効率的かつ安定的な農業経営を行うため、生産性や収益性の高い農業の展開を積極的に推進している地区に対して行い、今後の事業の円滑かつ着実な推進に資することを目的に実施されています。

なお、表彰式は3月25日東京の砂防会館別館「シェンバッハ砂防」で開催されます全土連総会の場において行われます。

【問い合わせ先】

水土里ネットみやぎ(宮城県土地改良事業団体連合会)

農地集積センター

〒980-0011

仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390

【ホームページURL】<http://www.mlw.or.jp/center/>